

んなでやつていくかということだと思いますが、いずれにしても、こういった努力をしたところは、やはりそれなりに、亮れるようになるとか、そういった形のある程度のリターンがないと、こういったものは民間に協力を求めることはできませんから、そういう意味では、今言われたように、環境権取引とかいろいろな言葉が今出てきていますけれども、そういうものを、これはアメリカを含めてみんなで考えるというのが大変大事なところだと思っております。

○末松委員 ゼビそこは研究していただいて、そして、そういう国際的な取り組みを深めていた産業界がそういう思いを持っているのは私もよく存じ上げていますけれども、イギリスでもアメリカでも、大体、ひょっとしたらこれは自分でもうけられる、おもしろいという話が国際的な流れになってきていますし、また、CO₂排出権取引市場の、例えばディール、取引があつたら、そのうちの一%、二%を技術の移転のための資金ブームに持っていますし、また、COP2排出権取引市場の、外交というのではなくてはならないことがありますから、総理の名代というような補佐官で行つたという話ですけれども、行つて、訪問してきた、その人が、すぐにやめます、そしてある特定の政党から選挙に出ます、こういうのはちょっとおかしいと私は思っています。もし選挙に出てられるような話であるならば、それは控えていたので、そして外務省のしかるべき人間が、それをきちんと総理の名代としてやつしていくのがうじやないかということになれば、市場が大きくなればなるほど、そういう技術移転の資金がふえていく。こういうのを市場で活用していくべき話ですから、外務大臣もそこは研究していただいている、そして日本の産業界もゼビ説得していただきたい、そこはお願ひしておきます。

さて、ちょっとほかにもテーマがありまして、拉致の問題なんですが、拉致の問題というよりも、中山補佐官が今度自民党から参議院選舉に出られるということで私もびっくりしましたのであります。この中山補佐官、出られる直前ですか、先月、アメリカと中国を訪問して外交をしていらっしゃるんですけども、これは外務省から中山さんへ頼むという形で言われたんですね。岩屋副大臣 先生御承知のとおり、政府は、拉致問題における今後の対応方針の一つに、国連を始めとする多国間の場、また、関係各國との緊密な連携を通じて、拉致問題の解決に向けた国際的

な協調をさらに強化していくという方針を掲げているわけでございます。したがって、中山補佐官は、この方針のもとで、北朝鮮による拉致問題担当の総理大臣補佐官として、中国、米国という主要な関係国を訪問されたわけでございます。

要は、補佐官は外務省の進言を受けて中国や米国を訪問したわけではありません。ただ、外務省としては、必要な補佐はさせていただけ、外務省としては、必要な補佐はさせていただけません。たゞ、訪問についての事前の段階から十分な相談は行つてあるということでございます。

○末松委員 では、そのとき、中山補佐官が選挙に出られるということは、外務省は承知していましたですか、いなかつたんですか。

○麻生国務大臣 知りません。

○末松委員 外交というのはやはり継続的なものでありますから、総理の名代というような補佐官で行つたという話ですけれども、行つて、訪問してきた、その人が、すぐにやめます、そしてある特定の政党から選挙に出ます、こういうのはちょっとおかしいと私は思っています。もし選挙に出てられるような話であるならば、それは控えていたので、そして外務省のしかるべき人間が、それをきちんと総理の名代としてやつしていくのがうじやないかということになれば、市場が大きくなればなるほど、そういう技術移転の資金がふえていく。こういうのを市場で活用していくべき話ですから、外務大臣もそこは研究していただいている、そして日本の産業界もゼビ説得していただきたい、そこはお願ひしておきます。

さて、ちょっとほかにもテーマがありまして、拉致の問題なんですが、拉致の問題といつても、中山補佐官が今度自民党から参議院選舉に出られるということで私もびっくりしましたのであります。この中山補佐官、出られる直前ですか、先月、アメリカと中国を訪問して外交をしていらっしゃるんですけども、これは外務省から中山さんへ頼むという形で言われたんですね。岩屋副大臣 先生御承知のとおり、政府は、拉致問題における今後の対応方針の一つに、国連を始めとする多国間の場、また、関係各國との緊密な連携を通じて、拉致問題の解決に向けた国際的

この種の話は継続というのが非常に大きなものだというのは、私もそう思います。

○末松委員 ここで私なんかが怒る場なのに、そだときたい。何か出られるということで、表向きは急遽そこを受け入れたような形ですけれども、そういうことをどんどんやつていかれれば、拉致問題で家族会の方とかをいろいろ巻き込んで一緒にやつてやつて、超党派でやつてきているわけです。それが、何か特定の、自民党から出られるという話になっちゃいますと、家族会の方々ある

なってやつて、超党派でやつてきているわけです。それが、何か特定の、自民党から出られるという話になっちゃいますと、家族会の方々ある

いはそれを応援している方々も、非常に複雑な気持ちにならざるを得ない、そういうふうに思いましたが、それでも、拉致問題を進められる外交の上で、大臣、どういうふうに思われますか。

○麻生国務大臣 正直申し上げて、これにかかる特定の政党から選挙に出ます、こういうのは、それでも、拉致問題を進められる外交の上で、大臣、どういうふうに思われますか。

○麻生国務大臣 わつていてないので何とも言ひようがありませんけれども、今言われたような雰囲気があるであろう大臣、どういうふうに思われるか。

○麻生国務大臣 これはだれに呼びかけているんですか、このボスターは。短く言つてくださいね。

○南川政府参考人 クールビズということで、ぜひ企業に事務所でクールビズに協力していただきたい、温度の管理の徹底をいただきたいということをございます。やはり社長、会長が率先して行うということで、多くの社すべての社員が温度管理、クールビズに協力していただくということを訴えるためでございます。

○末松委員 では、何で英語で書くんですか、子供とかお年寄りとかはわかるんですか、答えてください。

○南川政府参考人 企業のサラリーマンその他の方であれば十分御理解いただけますし、もちろんバクトがあると考えた次第でございます。

○末松委員 このエグゼクティブの中、大体、そこはしっかりと何か政治的に利用するというのは、どうしても後で割り切れないようなダメージも出でますから、そこはちょっと看過できないなど私は思つてゐるんで

時間がなくなつたので、ちょっともう一点。公金を選挙に利用しているんじゃないのかと問題、これは外務委員会で話をすることじゃなくて、むしろ環境委員会で私はしっかりそこはやらせていただきますけれども、ただ、今の形で、どうも参議院選挙、政治的に利用しているんじやないかなというのがありますので、そこをちょっとおつき合いたいと思います。

まず、私が資料を出しましたが、「ここに「新宿駅近くの地下鉄駅で撮影」と書いていますが、これは今月六日に私自身が撮った写真です。そこで、新宿駅の近くなんですが、一瞬驚いたわけですよ。柱に、総理と若林環境大臣が交互にずっと並んでいたのですよね、ポスターで。これは何なんだ。そして、その側面、横に、同じように総理、あと若林環境大臣、そしていろいろ有名企業の社長がどんどん写真に出てるわけです。これは、「COOLBIZ EXECUTIVE」

これはだれに呼びかけているんですか、このポスターは。短く言つてくださいね。

○南川政府参考人 まずは、環境省地球環境局長にお伺いします。

これはだれに呼びかけているんですか、このポスターは。短く言つてくださいね。

○南川政府参考人 クールビズに協力していただきたいたいことに従つて出されることに関しても、その正直なところです。

○末松委員 大臣は自民党の議員さんですから、まさにそこは反対はしないし、次の総理という本人の意向ということで、だれに勧められたかども今は行かれる段階で、私どもとして中山恭子補佐官の出馬を知つていただいていることは、否定は全然するつもりはありません。

ただ、この種の話は、出馬というの、これは今おりませんのでよく知らないんですけども、少なくとも今の行かれる段階で、私どもとして中山恭子補佐官の出馬を知つていただいていることは、否定は全然するつもりはありません。

まだ、この種の話は、出馬というの、これは本人の意向ということで、だれに勧められたかども今は行かれる段階で、私どもとして中山恭子補佐官の出馬を知つていただいていることは、否定は全然するつもりはありません。

○南川政府参考人 クールビズに協力していただきたいたいことに従つて出されることに関しても、その正直なところです。

○末松委員 大臣は自民党の議員さんですか、子供とかお年寄りとかはわかるんですか、答えてください。

○南川政府参考人 企業のサラリーマンその他の方であれば十分御理解いただけますし、むしろ

月、アメリカと中国を訪問して外交をしていらっしゃるんですけども、これは外務省から中山さんへ頼むという形で言われたんですね。岩屋副大臣 先生御承知のとおり、政府は、拉致問題における今後の対応方針の一つに、国連を始めとする多国間の場、また、関係各國との緊密な連携を通じて、拉致問題の解決に向けた国際的

な協調をさらに強化していくという方針を掲げているわけでございます。したがって、中山補佐官は、この方針のもとで、北朝鮮による拉致問題担当の総理大臣補佐官として、中国、米国という主要な関係国を訪問されたわけでございます。

要は、補佐官は外務省の進言を受けて中国や米国を訪問したわけではありません。ただ、外務省としては、必要な補佐はさせていただけます。

○末松委員 ここで私なんかが怒る場なのに、そだときたい。何か出られるということで、表向きは急遽そこを受け入れたような形ですけれども、そういうことをどんどんやつていかれれば、拉致問題で家族会の方とかをいろいろ巻き込んで一緒にやつてやつて、超党派でやつてきているわけです。それが、何か特定の、自民党から出られるという話になっちゃいますと、家族会の方々ある

いはそれを応援している方々も、非常に複雑な気持ちにならざるを得ない、そういうふうに思いましたが、それでも、拉致問題を進められる外交の上で、大臣、どういうふうに思われるか。

○麻生国務大臣 正直申し上げて、これにかかる特定の政党から選挙に出ます、こういうのは、それでも、拉致問題を進められる外交の上で、大臣、どういうふうに思われるか。

○麻生国務大臣 わつていてないので何とも言ひようがありませんけれども、今言われたような雰囲気があるであろう大臣、どういうふうに思われるか。

○麻生国務大臣 これはだれに呼びかけているんですか、このポスターは。短く言つてくださいね。

○南川政府参考人 まずは、環境省地球環境局長にお伺いします。

これはだれに呼びかけているんですか、このポスターは。短く言つてくださいね。

○南川政府参考人 クールビズに協力していただきたいたいことに従つて出ることに関しても、その正直なところです。

○末松委員 大臣は自民党の議員さんですか、子供とかお年寄りとかはわかるんですか、答えてください。

○南川政府参考人 企業のサラリーマンその他の方であれば十分御理解いただけますし、むしろ

名でも書いてくれよと言いたくなりますよ、日本語で書いてくれと。それを、企業だとか、英語じやないと読めないじゃないかという話は、おかしな話なんです、そこは。

それと、あと、この安倍総理と若林さん、何か

ことなんですかとも、それはどうなんですか。この方々にもエグゼクティブと書いているんですけど、それは確かに総理と環境大臣ですか、それが、エグゼクティブだつたら、エグゼクティブの方だけ書けばいいじゃないかという

ことなんですかとも、それはどうなんですか。何か急にここだけ二人が自民党的な政治家という形で、それは確かに総理と環境大臣ですかとも、なぜ一人だけなんだ。もし企業が相手だつたら、みんな企業のあれを書けばいいじゃないか。

○南川政府参考人 これは、チーム・マイナス六%のチームリーダーでございます総理大臣、それからサブリーダーでございます環境大臣がそろって出ることでインパクトが大きいというふうに判断したからでございます。

○末松委員 本当に、結局、これを見たら、日本語で書いていないから、ぱっとみんなが思うのは、この格好だけですよ。ということは、安倍総理と若林環境大臣のこれは宣伝じゃないですか。ほかに、この柱だって書いていないじゃないか、ほとんど。これはまさしく参議院選挙に向かって選挙のための政治利用としか思えないんですよ。そういう判断は、環境省、やらなかつたんですか。

○南川政府参考人 六月は環境月間でございます。また、六月五日は環境の日でございますので、その日をターゲットにわかりやすい広報を出したということをございます。

○末松委員 環境月間、それはわかりますよ。あなた、この前、二〇〇五年の選挙直前、四月と七月にこういった新聞で一面広告を、これは六月五日安倍総理御夫婦がしっかりと出ているわけですが、全紙に出ているという話なんですが、環境月間じゃないところで二〇〇五年に出しているんで

すよ、それをどう説明するんですか。

○南川政府参考人 私ども、ことし、昨年からござりますけれども、六月が環境月間で最も適切だということで判断しました。したがって、六月五日に出したところでございます。

なお、これにつきましては、当然ながらクール

ビズ以外にもウォームビズ等ござりますので、時期は必ずしも六月ではございませんけれども、春については六月ということが最も適切と判断したところでございます。

○末松委員 クールビズとか地球温暖化防止といふことについてどんどん宣伝しろというのは、私も全くそのとおりだと思う。

○南川政府参考人 本当にそれはそうやるべきだと思うけれども、なぜ参議院選挙の一月前にこういうのをどんどん出すんですかというところ、これが問題だと言っているわけです。それ

は、政治的な中立性というものを書いているじゃないですか。そういう配慮が全くないんですか。環境省は。

環境省、きのう聞きましたよ、課長に、総務課長も呼んで聞いた。そうしたら、私たちはこれをやることが重要だと考えていました、それだけでよ。ほかに、この柱だって書いていないじゃないか、ほとんど。これはまさしく参議院選挙に向かって選挙のための政治利用としか思えないんですよ。そういう判断は、環境省、やらなかつたんですか。

○南川政府参考人 私どもも含めまして、全く政

治的な利用ということについては考えておりませ

ん。

○末松委員 昨年三月に小池大臣が我が方の村井

議員の指摘を受けて、こういった政治的な利用と

いうものはおかしいじゃないか、政治的な中立を害するじゃないかというようなことで、そして彼女が答弁をしています。二〇〇五年のときは、あ

れは選挙がいつあるかわからなかつたから、だ

かりそういつた配慮はしませんでした、ただ、選

挙時にはさまざまな配慮があることは当然です

いうようなことを答弁されておられます。その答

弁をあなたは知らなかつたんですか。

○南川政府参考人 小池前大臣は、選挙中については配慮されるべきだということを答えたという

ことは承知をしております。私ども、現在につきましては選挙期間中ではないというふうに承知しております。

○末松委員 では、選挙期間、つまり小池大臣の答弁の選挙中ということになりますとということであれば、では、参議院選であれば、七月五日か

ら二十一日まではだめだけれども、あとはすべて

いい、その解釈ですね、あなたは。

○南川政府参考人 選挙戦が実際に告示されれば、当然配慮が必要だと思うわけであります。

○末松委員 これはおかしいですよ、あなた。本

来であれば、さまざまな配慮というものがあつて

しかるべきでしょう。もちろん、やつてること

に異議は唱えません、この地球温暖化防止という

ことについて。ただ、そこに特定政党の、幾らそ

れが総理大臣であれ環境大臣であれ、選挙が参議

院選挙として決まっているわけでしょ、そこは

長も呼んで聞いた。そうしたら、私たちはこれをやることが重要だと考えていました、それだけです。

ほかに、この柱だって書いていないじゃないか、ほとんど。これはまさしく参議院選挙に向かって選挙のための政治利用としか思えないんですよ。そういう判断は、環境省、やらなかつたんですか。

○南川政府参考人 私どもも含めまして、全く政

治的な利用ということについては考えておりませ

ん。

○末松委員 とにかく、そういうことであるなら

ば、私どもとしても、私どもなりの決意を持つて、そこは環境省に対して私どもの意思を主張し

ています。

まだ時間があるのでもう一度答弁してください。

○南川政府参考人 ポスターにつきましては、それが細かいことなんだけれども、総理と今度、奥様、御夫人が出ていますけれども、奥様の位置づけはどういう形で出たんですか。

○南川政府参考人 あなたが責任者ですよ。契約者は、博報堂とあなたが契約者なんですよ。問います。

○南川政府参考人 予定どおり、六月十二日の日

度また載るというんですね。それをあなたはやる

のですか。あなたが責任者ですよ。契約者は、博

報堂とあなたが契約者なんですよ。問います。

○南川政府参考人 予定どおり、六月十二日の日

度また載るといふんですね。それをあなたはやる

のですか。あなたが責任者ですよ。契約者は、博

報堂とあなたが契約者なんですよ。問います。

○南川政府参考人 そのデザインの中には総理と

環境大臣が入つております。載ることになつてお

ります。

○南川政府参考人 政治的な中立を害してやつていくと

いうことについては、本当に、まさしく環境問題

いう性質を考えても、その程度の配慮ができるな

い環境省だから、CO₂の排出権取引市場なんと

いうのも各省を説得できないんですよ。しかし、配慮をきちんとやれよ。いいですか、本当に。

私は、ここは強く環境省の方に申し入れます。六月十二日の日経の掲載については中止をしてください。

ださい。要請します。そして、この中止という中身は、今まで博報堂が出してきた総理と環境大臣、そういう自民党的な政治家を使うのではなくて、いろいろなモデルであれば全く問題ないです。

よ、政治家でなければ全く問題ない。しっかりとそこは申し入れます。

もう一度答弁してください。

○南川政府参考人 申し入れがあつたことは受けとめます。ただし、私は、現時点で特に変更する考えはございません。

○末松委員 とにかく、そういうことであるならば、私どもとしても、私どもなりの決意を持つて、そこは環境省に対して私どもの意思を主張していきます。

まだ時間があるのでもう一度答弁してください。

○南川政府参考人 ボスターにつきましては、総理が先頭になつてやつていただくわけでございま

すが、今回のアイデアが、特に家庭における省エネ、電球等の買いかえでございます。そういう

ことです。あなたが責任者ですよ。契約者は、博

報堂とあなたが契約者なんですよ。問います。

○南川政府参考人 予定どおり、六月十二日の日

度また載るといふんですね。それをあなたはやる

のですか。あなたが責任者ですよ。契約者は、博

報堂とあなたが契約者なんですよ。問います。

○南川政府参考人 今年度につきましては、年間トータルで二十七億円の契約をいたしております。

○末松委員 広告については一億六千五百万といふ話が出ていますが、それも事実ですね。

○南川政府参考人 確定作業はこれからでございふうに考えております。

○末松委員 最後の質問なんですけれども、博報堂とは、では、ことしと去年とおどとし、これはずっと三十億円近くのお金で契約をしてきたんですね。

○山口委員長 時間が過ぎておりますので、簡潔に答弁をお願いします。

○南川政府参考人 企画競争をして、外部の審査も行つた上で、そういうふうに契約をしております。

○末松委員 わかりました。これ以上の質問は環境委員会でさせていただきます。

○山口委員長 次に、笠井亮君。

○笠井委員 日本共産党的な立場による意見を述べます。先ほど山口委員が取り上げた、自衛隊による憲法違反として違法の国民監視の問題は極めて重大な問題であります。昨日も、私たちの党は参議院の外交防衛委員会でこの問題を取り上げました

○南川政府参考人 企画競争をして、外部の審査も行つた上で、そういうふうに契約をしております。

委員会で、我が党の緒方議員の質問に対しても、浅野外務副大臣は、詳細について米側に照会をするという形で答弁をされております。
そこで、米側に照会した結果について、これは外務省で結構ですが、次の三点について報告をしてほしいと思います。

一つは、米側の汚染度の分類基準、カテゴリー一から四というふうにあると承知しているんです
が、これがどういうものか。それから第二点目は、照会の結果、米側から新たに確認された案件があつたのかどうか。三つ目には、九十件の事故中、それぞれのカテゴリーごとの内訳がどうなつておるか。お答えください。

○梅本政府参考人 ただいま御指摘のございまして、横田飛行場における油漏れに関して、まさに三月に当委員会等で御議論ございましたことを踏まえまして、アメリカ側に照会をしておりました。

その結果について御説明いたしたいと思ひます。まず、油等の流出事故に関する米軍部内の基準でございますが、これについては、米側より、事故を区分する基準として次のような分類があると

いう説明を受けております。

カテゴリー一から四までございますが、これは基本的には流出した油の量を基準に考えておりま

すが、カテゴリー一は、流出量一万ガロン以上の

ものということで、これは、環境に被害を及ぼ

す、あるいは公衆の健康や安全に深刻な脅威を与

きようは、限られた時間で、麻生大臣に直接かかわる問題ということで、米軍再編の焦点の一つである横田基地をめぐる問題で幾つか質問をしたいと思います。

前回の委員会で、米軍嘉手納基地内の航空機燃料漏れ事故の問題を取り上げられましたが、横田基地についても、ことし三月、ジェット燃料など有害物質漏れ事故が一九九九年から二〇〇六年の七年間で九十件も発生をして、そのうち一件だけが地元自治体に通報されたということが明らかになりました。三月二十九日の参議院の外交防衛

十件の流出事故が起きているということでございまして、これについて、報道にある油漏れ等があつたことは事実であるという回答がございました。

このうち、二〇〇四年の所沢通信所の油漏れにつきましては、公共の安全あるいは環境に対する影響を及ぼす蓋然性があつたということから、日本側に通報が行われております。また、その後、四ヶ月をかけて浄化作業が行われたということでございます。

残りの油漏れについては通報は行われておりますが、これは先ほど御説明いたしました

米軍の内部の基準のカテゴリー二から四の油漏れだということでございまして、周辺住民への影響はない」と判断されたということでおられます。た

だ、油漏れが発見された後には、米軍の中で緊急対応チームが通報を受け、司令官に報告をされ、油漏れは、除去チームにより直ちに除去に取り組んでいるということでおられます。

なお、この九十件のうち、カテゴリーの二に該当する二件については、そのうちの一件について

は、実はこれは二〇〇二年の四月に起きたわけでございますが、これはいわゆる事件、事故通報手続に基づく通報は行われておりませんけれども、事故があつた翌日に参考情報として私どもの方に連絡があつたということでおられます。

以上でございます。

○笠井委員 そもそも、有害物質の流出のよう

事故が起きた際に、米側が日本側政府、それからその後、自治体に通報するシステムになつてゐる

ところです。それで、危險も被害も及ぼさないもの、それからカテゴリー四として、それ以下のもの、すなわち流出量百ガロン未満のものということでございま

す。あるいは公衆の健康や安全に脅威を与えるといふことになります。それから、カテゴリー二として、流出量百から千ガロンのもの

ものということで、これも、環境に被害を及ぼす、あるいは公衆の健康や安全に脅威を与えるといふことになります。それから、カテゴリー一として、流出量百から千ガロンのもの

ものということで、これも、環境に被害を及ぼす、あるいは公衆の健康や安全に脅威を与えるといふことになります。それから、カテゴリー二として、流出量百から千ガロンのもの

ものということで、これも、環境に被害を及ぼす、あるいは公衆の健康や安全に脅威を与えるといふことになります。それから、カテゴリー一として、流出量百から千ガロンのもの

ものということで、これも、環境に被害を及ぼす、あるいは公衆の健康や安全に脅威を与えるといふことになります。それから、カテゴリー二として、流出量百から千ガロンのもの

ものということで、これも、環境に被害を及ぼす、あるいは公衆の健康や安全に脅威を与えるといふことになります。それから、カテゴリー一として、流出量百から千ガロンのもの

ものということで、これも、環境に被害を及ぼす、あるいは公衆の健康や安全に脅威を与えるといふことになります。それから、カテゴリー二として、流出量百から千ガロンのもの

ものということで、これも、環境に被害を及ぼす、あるいは公衆の健康や安全に脅威を与えるといふことになります。それから、カテゴリー一として、流出量百から千ガロンのもの

ものということで、これも、環境に被害を及ぼす、あるいは公衆の健康や安全に脅威を与えるといふことになります。それから、カテゴリー二として、流出量百から千ガロンのもの

ものということで、これも、環境に被害を及ぼす、あるいは公衆の健康や安全に脅威を与えるといふことになります。それから、カテゴリー一として、流出量百から千ガロンのもの

ものということで、これも、環境に被害を及ぼす、あるいは公衆の健康や安全に脅威を与えるといふことになります。それから、カテゴリー二として、流出量百から千ガロンのもの

域外において、いわゆる基地の外に、公共の安全あるいは環境に影響を与えるかどうかということを基準として、一義的には米側が判断をして通報していく、こうのことになつております。

○笠井委員 その判断が米軍側にゆだねられていて、これが大きな問題だと思うんです。結果として、今回の米軍基地の事例のように、事が米国の中でも明らかになるという、後になってから日本側が確認してみたらこうしたことだったという事態になるわけであります。

アメリカの情報公開法に基づいて開示された資料によれば、公開された九十件のうち十件は詳細な報告書がつくられており、米太平洋空軍はカテゴリー一から三の事故は報告書を作成するように各基地に指示している。環境への被害や公衆の健康や安全に影響を与えるカテゴリー一、二だけじゃなくて、危険も被害も及ぼさないとする三まで報告書があるということです。

そこで、麻生大臣、こうした事件、事故が発生した場合に、公共の安全、環境に影響を及ぼす可能性ということで、その判断を米軍にゆだねるんじやなくて、少なくとも米軍内で報告書を作成する、そしてそれを直ちに地元自治体にも通報するということが必要なんじゃないか、そのためにも報告書があるということです。

そこで、麻生大臣、こうした事件、事故が発生した場合に、公共の安全、環境に影響を及ぼす可能性ということで、その判断を米軍にゆだねるんじやなくて、少なくとも米軍内で報告書を作成する、そしてそれを直ちに地元自治体にも通報するということが必要なんじゃないか、そのためにも報告書があるということです。